

(2)実践編① 評価票項目の概略

＜指標＞ 1→優れている→4		市町村	教育委員会
1	事業名		
2	主管部局課係		
3	関係課・係		
4	担当者		
5	施策目標	各市町村の領域の推進目標(中期計画・推進計画がベースとなる)を記入します。 (例)事業が家庭教育の領域の場合 家庭の教育力を高めるための学習機会の提供と相談体制の充実に努める	
6	事業目標	開催要項に載っている目標や趣旨、ねらいを記入します。	
7	得ようとする事業効果	評価の客観性を高めるために、事業目標を数値化して記入します。 (例) 事業目標:子どもの生活リズムが大切だと理解してもらい、家庭教育力の向上を図る 得ようとする事業効果:保護者に子どもの生活リズムが大切だと理解してもらう→参加者の80%	
8	事業概要		
9	事業形態	予算の出所や委託の有無、関係団体(実行委員会)との連携状態を記入します。	
10	予算額		
11	事業年度		
12	有効性 1 2 3 4	評価指標	設定した事業効果と実際の指標はどうだったか記入します。 (例)得ようとする事業効果の指標 80% 実際の指標 70%
		検証手段	指標をどのように検証したか記入します。 (例)参加者アンケート、聞き取り調査など
		判断根拠	有効性を判断する根拠を記入します。 (例)・80%以上→4 ・79から60%→3 ・59から40%→2 39%以下→1
13	効率性	(例)事業形態や展開の効率性や費用対効果。他部局やボランティア・NPO等との事業連携の形態、事業効果と費用の関係を明らかにする。ただし、社会教育、生涯学習分野では、その効果を早期に換算することが難しいことが多いため、十分配慮を必要とする。	
14	公平性	(例)費用や費用負担、事業効果が住民に公平に分配されるものになっているか。	
15	優先性	(例)現代的な社会要請や地域課題の解決、事業の緊急性、波及の大きさ、即効性、などによって優先性を示す。	
16	総合判断 (成果と課題) 1 2 3 4	有効性、効率性、公平性、優先性及び事業の成果をふまえて判断し、記入します。	
17	次回得ようとする事業効果	次年度以降も継続事業であれば、総合判断の成果と課題をふまえて記入します。	
18	備考	事故や緊急の事態があれば記入します。	

整合性を図る

必要に応じて記入

実践編② 社会教育事業評価〈事例1〉 後志町村教育委員会協議会共同事業「ぶっくらんど」

＜指標＞ 1→優れている→4		市町村	後志町村教育委員会協議会社会教育推進事業実行委員会
1	事業名	ぶっくらんど～読みたい本に出会える日～	
2	主管部局課係	後志町村教育委員会協議会社会教育推進事業実行委員会	
3	関係課・係	後志町村教育委員会協議会、社会教育主事会、北海道教育振興会后志支部、教育局、読み聞かせボランティア団体、図書館関係職員	
4	担当者	後志町村教育委員会協議会社会教育推進事業実行委員会事務局：柴田、佐々木、湯澤、児玉	
5	施策目標	管内の今日的な社会教育の課題に対する事業推進。《教委協》北海道教育推進計画（原案）より読書活動の推進《道教委》「北海道教育の日」の普及啓発《北海道教育振興会后志支部》	
6	事業目標	学校・家庭・地域において読書活動を推進するため本に親しむ機会を提供するとともに、「北海道教育の日」の普及啓発を図る。	
7	得ようとする事業効果	事業への関心を高め（別紙アンケートの各項目で3.0点以上）、20市町村からの来場と、100名の参加期待数を設定した。また、チラシの配布は管内で5751枚、ポスターは376枚配布し、「北海道教育の日」の普及・啓発を図った。	
8	事業概要	主な内容は、基調講演、しかけ絵本コーナー、つくってみよう自分の絵本コーナー、おはなし会コーナー、図書館を知ろう、古本リサイクルコーナー	
9	事業形態	後志町村教育委員会協議会、北海道教育振興会后志支部、後志教育局の共催	
10	予算額	30万円	
11	事業年度	19年度（初回）	
12	有効性 1 2 (3) 4	評価指標	250名（参加期待数100名）、未確認（参加期待市町村20）、
		検証手段	実行委員、ボランティア等へのアンケート
		判断根拠	参加数が250名と大きく期待数を上回ったが、全ての市町村からの参加に至らなかった。内容面をアンケート結果（4段階）でみると、講演（3.2点）、しかけ絵本コーナー（3.2点）、おはなし会コーナー（3.6点）、図書館を知ろう（3.0点）、つくってみよう自分の絵本コーナー（3.2点）、北海道教育の日の啓発（2.3点）となり、平均は3.1点になった。また、ブックツリーへの参加は135枚という結果だった。
13	効率性	（例）事業形態や展開の効率性や費用対効果。他部局やボランティア・NPO等との事業連携の形態、事業効果と費用の関係を明らかにする。ただし、社会教育、生涯学習分野では、その効果を早期に換算することが難しいことが多いため、十分配慮を必要とする。	
14	公平性	（例）費用や費用負担、事業効果が住民に公平に分配されるものになっているか。	
15	優先性	（例）現代的な社会要請や地域課題の解決、事業の緊急性、波及の大きさ、即効性、などによって優先性を示す。	
16	総合判断 （成果と課題） 1 2 (3) 4	『つくってみよう自分の絵本のコーナー』の盛況や来場者の「これから読んでみたい本」や「好きな本を紹介する『ブックツリー』へ参加枚数がのべ135枚に達するなど、本に親しむための機会提供を図ることができた。また、『図書館を知ろうコーナー』では、管内の図書館（室）マップを製作、掲示するなど、本事業を通して、実行委員のネットワークができ、ボランティア間の交流が図られた。事業後、ブックツリーは、真狩村、ニセコ町、倶知安町で再利用され、留寿都村ではつくってみよう自分の絵本コーナーの印刷教材が活用された。次回は、普及・啓発に向けた取組と20市町村からの参加が課題である。	
17	次回得ようとする事業効果	管内の社会教育の課題に対する事業推進として、20市町村から参加できる事業。	
18	備考		

実践編② 社会教育事業評価〈事例2〉 各市町村事業評価事例

<指標> 1→優れている→4

市町村

島牧村教育委員会

1	事業名	小学生国内視察研修事業	
2	主管部局課係	小学生国内研修事業実行委員会 事務局 教育委員会 生涯学習係	
3	関係課・係		
4	担当者	社会教育主事 鈴木健二	
5	施策目標	人材育成	
6	事業目標	村内の小学五年生を対象に国内視察研修を行い、児童に広い視野から郷土島牧村を見ることができ る感覚を養い、将来的に地域活性化や文化の向上など地域社会の形成に積極的に参加できる人 材を育成する	
7	得ようとする 事業効果	上記のとおり また総合的な社会性	
8	事業概要	3泊4日で東京方面への視察 国会議事堂 江戸東京博物館 キッザニア NHKスタジオ パーク 東京ディズニー シー	
9	事業形態	村からの小学生国内視察研修事業実行委員会への助成金	
10	予算額	2,600,000円	
11	事業年度	平成18年度	
12	有効性 1 2 ③ 4	評価指標	参加者16名
		検証手段	参加者感想文 引率者の打ち合わせ
		判断根拠	
13	効率性		
14	公平性		
15	優先性		
16	総合判断 (成果と課題) 1 2 ③ 4	人材の育成という観点から小学5年生という年齢からも評価については難しいが、視察場 所での体験以外にも対象児童にとっては3泊4日というスケジュールの中で親元から離れ るということや公共交通機関や飛行機に乗ったり等(実際に自分で切符を購入して行き先 を確認したりする)、普段体験できない経験を通じての社会性が養われたと考える	
17	次回得ようとする事業効果		
18	備考		

実践編② 社会教育事業評価<事例2> 各市町村事業評価事例

<指標> 1→優れている→4

市町村

寿都町教育委員会

1	事業名	平成19年度自然体験キャンプ	
2	主管部局課係	寿都町教育委員会住民学習推進係	
4	担当者	社会教育主事 鎌田みどり	
5	施策目標	心豊かで明るい人づくり ふるさとを愛する人づくり 次世代を担う人づくり	
6	事業目標	本町の豊かな自然の中で、野外生活を通して協力すること、助け合うことを学ぶとともに、野外活動の技術を身につけ楽しさを実感する。	
7	得ようとする事業効果	①協力すること、助け合うことの大切さを体験・実感させる→90%以上 ②野外生活の技術の習得(火おこし・調理)→80%以上 ③携わってくれた大人への感謝の気持ちを持つ→70%以上 ④科学実験を通して学習の楽しさを体験する→70%以上 ⑤寿都の自然を再発見する	
8	事業概要	日程:8月2日～4日 2泊3日の野外生活 協力:技術士会 対象:小学4年生～中学生 参加料:1500円 内容:野外炊飯・スポーツ・キャンプファイヤー・ふなつり・ミニロケットづくりと打ち上げ・カレーコンクール・おもしろ科学実験(わたあめ製造機、数字のマジックほか)	
9	事業形態	町教委主催事業	
10	予算額	110,000円 + 参加料	
11	事業年度	平成19年度	
12	有効性 1 2 3 4	評価指標	参加者23名
		検証手段	ふりかえり時に作成してもらった感想文
		判断根拠	①達成 ②70% ③50% ④達成 ⑤
13	効率性	(例)事業形態や展開の効率性や費用対効果。他部局やボランティア・NPO等との事業連携の形態、事業効果と費用の関係の関係を明らかにする。ただし、社会教育、生涯学習分野では、その効果を早期に換算することが難しいことが多いため、十分配慮を必要とする。	
14	公平性	(例)費用や費用負担、事業効果が住民に公平に分配されるものになっているか。	
15	優先性	(例)現代的な社会要請や地域課題の解決、事業の緊急性、波及の大きさ、即効性、などによって優先性を示す。	
16	総合判断 (成果と課題) 1 2 3 4	協力することの大切さを実感しているが、「だから自分が何をすべきか」を考えたり「手を差し伸べる」「協力を要請する」ということができない。そういった面がどの場面でも見られた。一方、科学実験など個人が活躍する場面が見られた。「相手の考えを聞くこと・尊重すること」「自分の気持ちを伝えること」「全体をまとめること」などリーダー的人材が見えなかった。今後の課題としては、自然の力を利用して遊ぶ・生活するという力を伝えること、また団体で何かをすることの大切さや難しさを根気強く指導していくことが必要である。	
17	次回得ようとする事業効果	高校生ボランティアの参画 寿都の自然体験活動の充実(安全に留意した新しいフィールドの探索)	
18	備考		

実践編② 社会教育事業評価(事例2) 各市町村事業評価事例

<指標> 1→優れている→4

市町村

黒松内町教育委員会

1	事業名	子どもスポーツフェスタ21	
2	主管部局課係	黒松内町教育委員会	
3	関係課・係		
4	担当者	社会教育主事 前田 武・スポーツ指導員三浦美由紀	
5	施策目標	青少年育成活動の充実	
6	事業目標	スポーツを遊びの観点で捉えながら多様な活動を通して、子ども達の心身の成長を促すとともに、運動能力の向上を図るとともに、ボランティア活動・レクリエーション活動も取り入れ、子ども達の生きる力・豊かな心を育てる。	
7	得ようとする事業効果	①スポーツの楽しさをしてもらう。②異学年活動を通して集団活動の楽しさを理解する。③競技的スポーツ遊びを通してルールやマナーについて理解を深める。また、チームワークの大切さについて理解をする。→ 各項目とも参加者の80%以上	
8	事業概要	①通年事業とする。毎月第4土曜日を活動日とする。②活動内容には、様々な遊びを取り入れる。③自然体験活動を取り入れる。③父母に協力をしてもらう活動日を設ける。	
9	事業形態	町補助金「健康とスポーツの町」スポーツフェスティバル運営委員会事業	
10	予算額	10万円	
11	事業年度	平成18年度	
12	有効性 1 2 ③ 4	評価指標	参加者アンケート36名
		検証手段	参加者アンケート
		判断根拠	①スポーツの楽しさが解った。97% ③異学年活動を通して集団活動の楽しさを理解した。83%③競技的スポーツや遊びを通してルールやマナーについて理解をした。41%
13	効率性	(例)事業形態や展開の効率性や費用対効果。他部局やボランティア・NPO等との事業連携の形態、事業効果と費用の関係を明らかにする。ただし、社会教育、生涯学習分野では、その効果を早期に換算することが難しいことが多いため、十分配慮を必要とする。	
14	公平性	(例)費用や費用負担、事業効果が住民に公平に分配されるものになっているか。	
15	優先性	(例)現代的な社会要請や地域課題の解決、事業の緊急性、波及の大きさ、即効性、などによって優先性を示す。	
16	総合判断 (成果と課題) 1 2 ③ 4	スポーツを遊びの観点で捉え各回毎に工夫をしながら事業を実施した。昨年度より参加該当学年を1年生～3年生までとし、子ども達の体格等にあった活動内容だったのでスポーツの楽しさや異学年での遊びや集団活動については、目標指標を上回ったが、競技のルールや遊びのマナーについては、低学年ということもあり理解するのに時間を要し、目標指標に届かなかったため総合判断を③とする。、次年度は、ルールやマナーについては、時間をかけ、わかりやすい図や絵使って説明をする必要がある。	
17	次回得ようとする事業効果		
18	備考		

実践編② 社会教育事業評価〈事例2〉 各市町村事業評価事例

<指標> 1→優れている→4		市町村	蘭越町教育委員会
1	事業名	ちびっ子キャンプ村	

2	主管部局課係	蘭越町教育委員会生涯学習課生涯学習係	
3	関係課・係		
4	担当者	社会教育主事 工藤伸也	
5	施策目標	自己教育力を育てる少年活動と地域づくり青年活動の活性化	
6	事業目標	ふるさとの自然を活用した野外活動を通じて、仲間づくりや少年活動のリーダー養成を図り、ふるさと活動や異年齢間交流を図ることをねらいとする。	
7	得ようとする事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの自然のすばらしさを観たり、聞いたり体感する。 ・集団活動の大切さ、互いに協力し合いことの大切さを学ぶ。 ・自ら進んで行動する発揮力の向上。 ・ふるさとの自然を活用したプログラムの提供 	
8	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者行動班、生活班ごとに班編成をし、班長、副班長のリーダーを決めて行動した。 ・キャンプ中は、大きな声で恥ずかしがらず発表すること、自ら進んで行動することを目標とした。 ・朝と夜は、各班の代表を決め、一日の目標や反省を述べさせた。 ・中学生ボランティアには、小学生を指導するとともに、プログラムの進行やリーダー的存在として活用した。 	
9	事業形態	町補助金、参加者負担金(参加料)	
10	予算額	町補助金175,000円、参加料1人2,500円	
11	事業年度	19年度	
12	有効性 1 2 3 4	評価指標	小学生参加者32名、中学生ボランティア7名
		検証手段	参加者感想文
		判断根拠	感想文の内容や活動中の意見(現在未提出者多数)
13	効率性	(例)事業形態や展開の効率性や費用対効果。他部局やボランティア・NPO等との事業連携の形態、事業効果と費用の関係を明らかにする。ただし、社会教育、生涯学習分野では、その効果を早期に換算することが難しいことが多いため、十分配慮を必要とする。	
14	公平性	(例)費用や費用負担、事業効果が住民に公平に分配されるものになっているか。	
15	優先性	(例)現代的な社会要請や地域課題の解決、事業の緊急性、波及の大きさ、即効性、などによって優先性を示す。	
16	総合判断 (成果と課題) 1 2 3 4	野外の活動であるため、参加者の体調面や行動には常に管理体制を重視し、事故なく終了できたのが良かった。今年は、参加者全員に、大きな声で話す、自ら進んで行動する、協力し合うを目標にして参加してもらったが、半分ぐらいが目標に達成できていなかった。次年度は、プログラムの編成も極力同じくならないよう考慮し、事業を展開していきたい。多少の課題は見受けられたが、総合判断は4とする。	
17	次回得ようとする事業効果		
18	備考		

実践編② 社会教育事業評価(事例2) 各市町村事業評価事例

<指標> 1→優れている→4		市町村	ニセコ町教育委員会
1	事業名	少年ふるさと教室「紙飛行機をつくって飛ばそう」	
2	主管部局課係	教育委員会町民学習課	

3	関係課・係		
4	担当者	社会教育指導員 木村 捷利 町民学習課主任 中村 正人	
5	施策目標	地域性を生かしながら豊かな心とたくましい身体をもった青少年を育成する	
6	事業目標	自らの手で作り出す喜びを味わい、作ったもので遊ぶ楽しさを満喫することで想像力を培い、もっと作りたい、工夫したいという、さらなる創作意欲を高める	
7	得ようとする事業効果	・自ら作り出す楽しさ、喜びを知る ・いろいろなものを手作りしようとする意欲を高める	
8	事業概要	紙飛行機を作って屋外で飛ばす ・厚紙に印刷した型をはさみで切る(巧緻性) ・接着剤で貼り付け、組み立てる・まっすぐに飛ばすように調整する ・ゴムカタパルトで飛ばす・体験した感想を述べる 事業詳細は別添	
9	事業形態	町単独事業	
10	予算額	4,000円	
11	事業年度	18年度	
12	有効性 1 2 ③ 4	評価指標	参加者9名
		検証手段	参加者感想 事後の活動状況
		判断根拠	参加者の事後の関心の持続及び事後の継続的活動
13	効率性	(例)事業形態や展開の効率性や費用対効果。他部局やボランティア・NPO等との事業連携の形態、事業効果と費用の関係を明らかにする。ただし、社会教育、生涯学習分野では、その効果を早期に換算することが難しいことが多いため、十分配慮を必要とする。	
14	公平性	(例)費用や費用負担、事業効果が住民に公平に分配されるものになっているか。	
15	優先性	(例)現代的な社会要請や地域課題の解決、事業の緊急性、波及の大きさ、即効性、などによって優先性を示す。	
16	総合判断 (成果と課題) 1 2 ③ 4	作品完成に向け意欲的に取り組んでいた。また、機体完成後の屋外での飛行体験活動も積極的に楽しそうであった。その後も家の近くで飛ばして遊んで楽しかったと言っていた。しかし、新たな飛行機を創作し、楽しもうとする意欲、友人に楽しさを知らせるといった波及効果については、十分とは言えない。よって、総合判定は3が妥当と考える。	
17	次回得ようとする事業効果		
18	備考		

実践編② 社会教育事業評価〈事例2〉 各市町村事業評価事例

<指標> 1→優れている→4		市町村	真狩村 教育委員会
1	事業名	文化振興事業「第1回芸術鑑賞ツアー」	
2	主管部局課係	教育委員会社会教育係	
3	関係課・係		
4	担当者	社会教育主事 藤本 篤	

5	施策目標	村内の美術館閉館に伴い、村民の芸術に触れる機会を失うことのないよう札幌や後志近郊の美術館を春・冬の2回巡り、芸術に触れる機会をつくる。
6	事業目標	普段行くことのできない美術館等を巡り、芸術にふれることによって心の豊かさを育むと共に、文化についての専門的な知識も養うことを目的とする。
7	事業概要	本村にゆかりのある彫刻家・国松明日香氏をガイド講師として迎え、モエレ沼公園（札幌市）に行き、イサム・ノグチが情熱を注いだ多くの彫刻にふれる。 ※ 別紙詳細
8	事業形態	
9	予算額	56,571（内訳概要～講師謝礼44,444、旅費6,400、消耗品費3,000、広報宣伝費2,727）
10	事業年度	平成15年度事業開始（平成19年度より、年1回の開催に縮小予定）
11	得ようとする事業効果	・ 普段あまりふれることのない芸術文化に、この事業をとおして親しみを覚えてもらう。 ・ ガイド講師や学芸員等の解説により、芸術についての専門的な知識を養ってもらう。 ・ 参加者同士の親睦・融和を図り、新たな繋がりを持ってもらう。
12	必要性 1 2 3 ④	芸術に触れる機会が少ない住民にとっては、必要性があると考えられる。また、1人ではなかなか行くことができないが、この事業をきっかけにという声も多くあり、家族や夫婦での参加も多く見られるので、必要性が高いと考えられる。
13	効率性 1 2 3 ④	昨年度より春の部においては、講師を招き専門的な見解の解説を受けられているので、参加者がより興味を持てるという部分で効率が高いと考えられ、その解説があることによって参加したいと思っている住民も多い。
14	公平性 1 2 ③ 4	文化振興事業に限らず、どの事業においても視察研修は人気のある事業であり、他ではあまり実施していないことから、当事業のみがと考えると疑問が残る。また当事業の中で、参加者の昼食を自由としたため、スケジュールに支障を来したという部分においては、公平がとれていなかったと考えられる。
15	優先性 1 2 ③ 4	文化・芸術に興味のある住民を対象に考えれば、優先度が高い事業であるが、一方で、科学館や博物館等、芸術以外の分野の施設見学を望む声もあるのが現状である。
16	有効性 1 2 ③ 4	評価指標 参加者数 22名
		検証手段 アンケートを実施
		判断根拠 別紙アンケート結果より、「悪天候でなければ」という以外は、参加者は概ね満足したようであったが、主催者の不手際を指摘する内容もあった。
17	総合判断 (成果と課題) 1 2 ③ 4	普段見るのできない芸術にふれることによって、専門的な知識が養われ、豊かな心が育まれたという参加者の感想が聞かれることは成果があると考えられる。しかし、講師ガイドが付き、行先が札幌近郊である春の部は多くの住民が参加するが、冬の後志近郊の場合は、少数の参加者である。冬に体験活動を取り入れて事展開の工夫等を図ったが、あまり効果が出なかった。主催者側の内容に問題があるのかもしれないが、過去3年の同様の経過を踏まえ、来年度からは春の部のみの実施とする。
18	特記事項	
19	備考	効率性の判断は難しい。（予算の効率性なのか、事業展開の効率性なのか等）

実践編② 社会教育事業評価〈事例2〉 各市町村事業評価事例

<指標> 1→優れている→4		市町村	留寿都村教育委員会
1	事業名	読書推進事業「春の青空文庫」	
2	主管部局課係	教育委員会社会教育係	
3	関係課・係		
4	担当者	社会教育主事 池田雅博 生涯学習推進員 木村明美	

5	施策目標	今日、青少年から高齢者に至るまで、深刻な活字離れ、読書離れが指摘されている。読書活動は、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、各人が生涯を通して自ら学ぶ上で欠くことのできないものである。本事業で、住民に広く読書の重要性について啓発す	
6	事業目標	公民館図書室を会場に、本の世界の楽しさを紹介することにより、図書室利用の促進と、貸出を活発化させる。	
7	得ようとする事業効果	・図書利用者を新規に20名登録させる。 ・昨年度の月平均貸出冊数を5%アップさせる。	
8	事業概要	読書の楽しさが伝わるプログラムを展開した。 ・春にちなんだ本を紹介したブックトーク ・大型絵本の読み聞かせとパネルシアター(るすつお話隊) ・英語の絵本の読み聞かせと紙工作(English club for kidu) ・桜の花の切り紙工作	
9	事業形態	村の公民館事業	
10	予算額	7,100円(工作材料のための消耗品費・チラシ新聞折込のための手数料)	
11	事業年度	平成19年度	
12	有効性 1 2 ③ 4	評価指標	参加者16名
		検証手段	参加者の声を聴取、図書室利用状況。
		判断根拠	「楽しめた」「また来たい」との声があった。紹介した本を借りていったことで、公民館図書室の蔵書への関心が高まったと判断した。
13	効率性	るすつお話隊及びEnglish club for kiduの協力を得て、パネルシアター・英語の絵本の読み聞かせという多様なプログラムが実施できた。	
14	公平性	対象者は、幼児から一般成人まで幅が広い。事前のチラシ配布や、保育所・小学校への掲示もでき、広く住民に周知できた。	
15	優先性	児童・青少年から一般成人まで、読書離れ傾向が強く、閣議決定による「子ども読書推進計画」に基づき各自治体での読書推進計画策定が求められている。心の豊かさを育む上で読書に親しませることは重要である。	
16	総合判断 (成果と課題) 1 2 ③ 4	参加者には、単にお話を聞くだけでなく、ブックトークや折り紙工作もあり、楽しんでもらうことができた。ただ、参加人数が少なく、協力いただいたるすつお話隊とEnglish club for kiduの担当された方とその子どもで約44%であった。三ノ原小学校は行事があり参加児童はなく、保育所の園児の参加も少なかった。事前に日程を調整することと、保育所へはポスター掲示だけでなく保護者へのチラシ配布も行う必要がある。	
17	次回得ようとする事業効果		
18	備考		

実践編② 社会教育事業評価(事例2) 各市町村事業評価事例

<指標> 1→優れている→4		市町村	喜茂別町教育委員会
1	事業名	町民講座兼少年教室「わんぱく道場」Summer time アウトドア in キッキング	
2	主管部局課係	喜茂別町教育委員会生涯学習係	
3	関係課・係	喜茂別町健康推進課健康づくり係・住民福祉課放課後児童クラブ指導員	
4	担当者	教育委員会生涯学習係 吉田美保 健康推進課健康づくり係 菊田有美	

5	施策目標	核家族化や少子化、共働きの増加、地域における人と人とのつながりの希薄化など、家庭を取り巻く社会の変化の中で、家庭教育に対する親の意識が変化していることや、親戚・地域の人の支援が受けにくくなっていることなどにより、家庭における教育力の低下が指摘されています。家庭・学校・各関係団体・地域との連携を一層強化するとともに、既に子育てを終えた世代や高齢者の持つ豊富な経験が、家庭教育支援や地域づくりに活かされるよう事業の充実に努める。	
6	事業目標	アウトドアクッキングを通じて、自然の中で調理する体験を通じて、作ることの楽しさを感じてもらったり、子ども達が健やかに成長するため必要な異年齢の子どもや、地域の大人たちとのふれあいを図ることを目的とする。	
7	得ようとする事業効果	①調理する体験や作ることの楽しさを感じてもらう。⇒90%以上 ②異年齢の子どもたちや地域の大人たちとの交流を図る⇒70%以上	
8	事業概要	日時 平成19年8月1日(水) 午前9時00分～午後2時30分 場所 喜茂別町農村環境改善センター調理実習室 河川公園(町内幸町) 参加者数 小学生 21名・保護者2名・教諭1名・児童クラブ指導員4名・保健推進委員2名 食育ボランティア3名・スタッフ7名 計 40名 内容 調理実習室にて6班に別れてパンの生地づくり・バターづくり・焼きそばの具材作りを行なった。基本的に調理は小学生が行なうよう指導した。河川公園に移動し、バーベキューコンロで火おこし体験、木の棒にパン生地を巻き自分たちでパンを焼き、自分たちでつくったバターをつけ、昼食会を行なった。	
9	事業形態	単独事業	
10	予算額		
11	事業年度	事業開始年度 平成元年度	
12	有効性 1 2 3 ④	評価指標	参加者数 小学生 21名・保護者2名・教諭1名・児童クラブ指導員4名 保健推進委員2名・食育ボランティア3名・スタッフ7名 計 40名
		検証手段	事業終了後に指導委員・スタッフにて事業の検証を行なった。
		判断根拠	①⇒達成できた ②⇒概ね80% 参加者から、こんな形でパンができるのが楽しかった。今度自分の家でも作ってみたい。との声があった。各関係部局・保健推進委員・食育ボランティア等が連携して子どもたちを支える体制が整いつつある。
13	効率性	家庭教育の支援については、ふれあいセンター部局・子育て支援センター部局・教育部局が連携して、事業の展開を行なった。	
14	公平性	町民講座兼少年教室として実施したが、参加者は小学生が主であった。	
15	優先性	各関係部局と保健推進委員・食育ボランティア等が連携して事業を展開している。また、参加した子どもたち及び保護者との交流が深められる事業の優先性は高いものと考えられる。	
16	総合判断 (成果と課題) 1 2 3 ④	各関係部局と保健推進委員・食育ボランティア等が参加者の子どもたちを支える体制が取れ、事業がスムーズに実施できた。参加した子ども達が自主的に活躍する場面が多く取れていた。今後も子ども・親・地域住民とが交流を図れる事業を展開していく。	
17	次回得ようとする事業効果	子どもの食育のためにも調理体験学習は必要であるため、栄養士・教諭等の協力を得られるような事業展開を図る。	
18	備考		

実践編② 社会教育事業評価〈事例2〉 各市町村事業評価事例

<指標> 1→優れている→4		市町村	京極町教育委員会
1	事業名	茶道教室	
2	主管部局課係	教育委員会 生涯学習課 生涯学習係	
3	関係課・係	同上	
4	担当者	生涯学習係長 小野寺 健 、 茶道裏千家京極支部	

5	施策目標	豊かな心を育てる教育活動の充実	
6	事業目標	茶道は今日、日本の伝統文化の一つとして、海外にも礼儀や芸術的な作法が認められています。日本古来の茶道の精神をととして芸術文化を体験し、その作法・精神を学習します。	
7	得ようとする事業効果	・礼儀、感謝の気持ち、相手に対する心配りなど日常生活態度の変容を促す。→参加者の80%以上 ・日本の伝統文化を体験する機会を提供する。	
8	事業概要	・お茶を学ぶにあたって、ぜひ知っておかなければならない礼儀として、千利休の唱えた「和敬静寂」という文字に込められた意味をお話いただく。お互い同士が和し合う、お互い同士が尊敬し合う、心を清らかにする、どんな時も動じないことなど、自己の「修練」や「お互い尊重し合う」精神を学習する。 ・実習…作法やお茶の点て方を体験する。	
9	事業形態	町単費事業	
10	予算額	40,000円（講師謝金、食糧費）	
11	事業年度	平成18年度	
12	有効性 1 2 ③ 4	評価指標	参加者23名（小学6年生）
		検証手段	参加者アンケート（感想文）
		判断根拠	日常生活態度の変容：→目標80%以上→約61% 23名中14名
13	効率性	（例）事業形態や展開の効率性や費用対効果。他部局やボランティア・NPO等との事業連携の形態、事業効果と費用の関係を明らかにする。ただし、社会教育、生涯学習分野では、その効果を早期に換算することが難しいことが多いため、十分配慮を必要とする。	
14	公平性	（例）費用や費用負担、事業効果が住民に公平に分配されるものになっているか。	
15	優先性	（例）現代的な社会要請や地域課題の解決、事業の緊急性、波及の大きさ、即効性、などによって優先性を示す。	
16	総合判断 (成果と課題) 1 2 ③ 4	自己の日常生活態度の変容は、目標指標に届かなかったため、総合判断で3とする。成果と課題については、普段の生活を見つめ直すキッカケとなったことは良かったが、体験活動の一つに終始している部分も否めず、新たな事業形態により効果の最大を図ることも検討を要する。	
17	次回得ようとする事業効果		
18	備考		

実践編② 社会教育事業評価〈事例2〉 各市町村事業評価事例

<指標> 1→優れている→4		市町村	共和町教育委員会
1	事業名	「みんなのラジオ体操会」	
2	主管部局課係	共和町青少年育成協会（事務局：教育委員会社会教育係）	
3	関係課・係		
4	担当者	社会教育課長 武田俊明 他 社会教育課職員	

5	施策目標	健康な生活をめざし、自ら親しむ生涯スポーツ活動の推進	
6	事業目標	夏休み期間中、『早寝、早起き、ラジオ体操、朝ごはん』をスローガンに、地区子供会毎に「ラジオ体操」に取り組み、児童・生徒はもとより、地域住民も含めて、規則正しく、明るく健康的な生活を推進することをねらいとする	
7	得ようとする事業効果	町内にある地区子供会10団体の参加と、7月31日開催の育成協会本部主催の体操会に200名の参加期待数を設定した。地区毎での実施を前提としているため、チラシを全戸へ配布し、子どものみならず一般参加者へのPRも図った。	
8	事業概要	町内にある地区子供会10団体のうち、7団体が地区毎にラジオ体操会(1週間程度)を実施し、その他3団体については、本部主催の体操会(7/31開催)に参加する。地区子供会は3日～1週間の日程でそれぞれ独自に計画・実施する。	
9	事業形態	団体事業	
10	予算額	—	
11	事業年度	平成19年度	
12	有効性 1 2 ③ 4	評価指標	本部主催体操会 230名(参加期待数200名)、全団体で実施
		検証手段	・各体操会の参加者数 ・担当者による体操会の実地調査
		判断根拠	・参加者数が期待数を上回り、一般住民の参加が数多くあったことから有効性は高く評価できる。
13	効率性	(例)事業形態や展開の効率性や費用対効果。他部局やボランティア・NPO等との事業連携の形態、事業効果と費用の関係を明らかにする。ただし、社会教育、生涯学習分野では、その効果を早期に換算することが難しいことが多いため、十分配慮を必要とする。	
14	公平性	(例)費用や費用負担、事業効果が住民に公平に分配されるものになっているか。	
15	優先性	(例)現代的な社会要請や地域課題の解決、事業の緊急性、波及の大きさ、即効性、などによって優先性を示す。	
16	総合判断 (成果と課題) 1 2 ③ 4	事務局主導で事業を展開するのではなく、地区子供会主導で実施したため、経費及び時間をかけずに、準備、参加呼びかけ等実施することができた。また、各地区で実施したことにより、誰もが気軽に参加することができ、広範囲にわたる地区子供会では、会場を複数設けるなど、参加者への配慮が見られた。一般参加者も多く、地区行事として定着していく可能性も見られるが、少子化の影響等を考慮すると、実施主体を子供会に限定せず、地域としての取り組みに広げていく方向性も考えられる。	
17	特記事項		
18	備考		

実践編② 社会教育事業評価〈事例2〉 各市町村事業評価事例

<指標> 1→優れている→4		市町村	岩内町 教育委員会
1	事業名	青少年研修派遣事業「ジュニア上越の船」	
2	主管部局課係	教育課(社会教育・青少年担当)	
3	関係課・係		
4	担当者	主事 阿久津隆二 社会教育指導員 新井田宣昭	

5	施策目標	多様な体験活動を通じて「生きる力」を育む青少年教育の推進	
6	事業目標	上越市の歴史や文化と自然にふれて、視野を広め、洋上研修を通じ、リーダーに必要な知識や技術を取得させることを目的とする。	
7	得ようとする事業効果	上越市の歴史や文化と自然にふれて、視野を広め、団体行動を通してリーダーの育成を図る。	
8	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・研修日程(4泊5日) ・上越市子ども会と交流。 ・上越市社会教育施設等見学 ・研修後壁新聞を作成し、研修内容を発表(文化センターロビーにて展示)。 	
9	事業形態	町補助事業(実行委員会:学校長3名、教頭3名、教委5名)	
10	予算額	700,000円(町補助金) 参加料 1人15,000円	
11	事業年度	平成19年度	
12	有効性 1 2 3 4	評価指標	参加者20名
		検証手段	感想文・引率者の感想
		判断根拠	
13	効率性	(例)事業形態や展開の効率性や費用対効果。他部局やボランティア・NPO等との事業連携の形態、事業効果と費用の関係を明らかにする。ただし、社会教育、生涯学習分野では、その効果を早期に換算することが難しいことが多いため、十分配慮を必要とする。	
14	公平性	(例)費用や費用負担、事業効果が住民に公平に分配されるものになっているか。	
15	優先性	(例)現代的な社会要請や地域課題の解決、事業の緊急性、波及の大きさ、即効性、などによって優先性を示す。	
16	総合判断 (成果と課題) 1 2 ③ 4	小学5・6年生としては、4泊5日の研修は長い期間なので、親元から離れることにより、自立心向上のきっかけや団体行動の中での社会性の育成につながったと思う。この事業で上越市の歴史や文化・北海道との気候の違いなど学び感じたことは色々あると思うが、感想文だけではただ楽しかったという感想のみが多く、上手く研修成果を表現することができなく、総合判断が難しい状況であった。来年度は事業効果をより具体的に評価するため、参加者アンケートを作成する必要がある。	
17	特記事項		
18	備考		

実践編② 社会教育事業評価〈事例2〉 各市町村事業評価事例

<指標> 1→優れている→4		市町村	神恵内村教育委員会
1	事業名	長寿大学トド松学級	
2	主管部局課係	教育委員会社会教育係	
3	関係課・係		
4	担当者	社会教育主事 金内聡侍	

5	施策目標	村民の多様な学習要求に対応するため、趣味や教養に関することはもとより、生涯各期における問題や地域課題について互いに学び、高め合う学習機会の拡充に努める。	
6	事業目標	生涯学習推進の観点から、高齢者に対する学習機会の拡充を図り、生きがいと潤いのある人生を自ら築くとともに、高齢者同士の融和を図る。	
7	得ようとする事業効果	・参加者増(H17実績:講座一回あたり13人→H18目標:20人) ・趣味や教養に関する講座での学習内容を日常でも実践した人数(H17:データ無し→H18目標:1人以上)	
8	事業概要	・2時間程度の講座を年間9回実施(1ヶ月に1回実施を基本とする。) ・講座内容は教委担当者がその都度プログラム化 ・参加対象年齢は60歳以上	
9	事業形態	村単独事業	
10	予算額	50,000円(講師謝金) ※年会費として1,500円を徴収し教材費・飲食費として支出	
11	事業年度	平成18年度	
12	有効性 1 2 ③ 4	評価指標	参加者数:H17年度~13人(一回平均)→H18年度~16人(一回平均) 新規参加者5名増、趣味や教養に関する講座を受講後、日常で実践した人数2人以上
		検証手段	出席簿、聞き取り調査
		判断根拠	・一回平均の参加者が前年度より3名増だが、目標値には届かなかった。 ・年度途中からの新規参加者5名(前年度は0)
13	効率性	(例)事業形態や展開の効率性や費用対効果。他部局やボランティア・NPO等との事業連携の形態、事業効果と費用の関係を明らかにする。ただし、社会教育、生涯学習分野では、その効果を早期に換算することが難しいことが多いため、十分配慮を必要とする。	
14	公平性	(例)費用や費用負担、事業効果が住民に公平に分配されるものになっているか。	
15	優先性	(例)現代的な社会要請や地域課題の解決、事業の緊急性、波及の大きさ、即効性、などによって優先性を示す。	
16	総合判断 (成果と課題) 1 2 ③ 4	参加者数が目標値に達しないまでも、前年度よりも増えたことは学習機会の拡充に向けての成果の一つである。必要課題を学習内容に取り上げると参加者の評価が下がる傾向があるので、今後も学習方法等の工夫が必要である。	
17	次回得ようとする事業効果	参加者増(講座1回平均の参加者20人)	
18	備考		

実践編② 社会教育事業評価(事例2) 各市町村事業評価事例

<指標> 1→優れている→4		市町村	積丹町教育委員会
1	事業名	第2回少年教室「しゃこたん大発見」	
2	主管部局課係	教育委員会 生涯学習係	
3	関係課・係		
4	担当者	生涯学習係長 山崎英幸	生涯学習推進アドバイザー 菅池諄一

5	施策目標	積極的な家庭の教育力向上を目指す地域活動の振興を推進する。	
6	事業目標	自分たちの住む町「積丹」の自然を知る。	
7	得ようとする事業効果	・積丹の海や成り立ちを知る。 ・エコ活動への関心を高める。	
8	事業概要	・積丹の水中映像鑑賞 ・スノーケリングの基礎練習 ・スノーケリング活動	
9	事業形態	町単独事業	
10	予算額	10,000円	
11	事業年度	18年度、19年度	
12	有効性 1 2 ③ 4	評価指標	参加者9名
		検証手段	参加者からの聞き取り
		判断根拠	
13	効率性	ECOクルージングの指導者による水中映像講座及びスノーケリング実技など効率性は高かったと思う。	
14	公平性	子供達への事業効果は大きいものがあったと思われる。	
15	優先性	地域環境の保全という現実的な課題に触れる内容であり、優先性は高い。	
16	総合判断 (成果と課題) 1 2 ③ 4	「しゃこたん大発見」の事業名のもと、昨年はクルージングによる積丹半島の成り立ちや地層の学習及び水産資源についての学習を実施し、今年度は海に関わるエコ活動への知識を含めた学習と、2年間に渡って取り組んできた事業であったが、参加者の満足度も高く、それなりに高い成果があった。	
17	次回得ようとする事業効果		
18	備考		

実践編② 社会教育事業評価〈事例2〉 各市町村事業評価事例

<指標> 1→優れている→4		市町村	古平町教育委員会
1	事業名	家庭教育支援事業「子どもたちの未来を考える集い」	
2	主管部局課係	教育委員会生涯学習係	
3	関係課・係		
4	担当者	社会教育主事 小原和之 生涯学習推進アドバイザー 其田眞昭	

5	施策目標	家庭の教育力を高めるための学習機会の提供と相談体制の充実に努める	
6	事業目標	本町における児童・生徒の生活習慣の実態を把握してもらい、家庭において基本的な生活習慣が大切だということを理解してもらうとともに、家庭や学校等の様々な問題や悩みを参加者全員で話し合うことにより地域の家庭教育力の向上を図ることを目的とする	
7	得ようとする事業効果	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の大切さを理解してもらう→参加者の80%以上 家庭における悩みが少しでも軽くなるよう努める→最低でも1人 学習機会の提供 	
8	事業概要	テーマを設定し、参加者に自由に発言してもらった。 ・子どもの基本的な生活習慣について(早寝早起き朝ご飯運動の説明及び現状を報告) ・子育てについての悩み・相談 事業概要の詳細は別添	
9	事業形態	国委託事業	
10	予算額	5,000円(お茶代等)	
11	事業年度	18年度	
12	有効性 1 2 ③ 4	評価指標	参加者9名
		検証手段	参加者アンケート
		判断根拠	生活習慣の大切さを理解してもらう:目標80%→約78% 9名中7名 悩みの解消:目標最低でも1人→1人
13	効率性	費用 1人あたり500円程度	
14	公平性	子育て中の保護者の内、小学生の保護者を対象とした	
15	優先性	近年の青少年をめぐる様々な問題について、地域・家庭の教育力の低下が原因と指摘されている中で、古平町においても例外ではなく、本事業の優先性は高いものと考えられる。	
16	総合判断 (成果と課題) 1 2 ③ 4	生活習慣の大切さを理解してもらおうという目標が少し指標に届かなかったため、総合判断は3とする。なお、成果と課題は、保護者に対して古平町の子どもの現状を知ってもらい、生活習慣の大切さを理解してもらえたことは良かったが、参加者からしつけはもっと小さいうちからやらないと厳しいとの声が聞かれた。今後は、子育て支援センター及び幼稚園と連携をして、幼児の保護者を対象とした事業展開を図っていく必要がある。	
17	次回得ようとする事業効果		
18	備考		

実践編② 社会教育事業評価(事例2) 各市町村事業評価事例

<指標> 1→優れている→4		市町村	仁木町教育委員会
1	事業名	ふるさとめぐり	
2	主管部局課係	教育委員会社会教育課社会教育係	
3	関係課・係		
4	担当者	社会教育主事 鈴木昌裕・嶋井康夫	

5	施策目標	郷土の歴史等についての理解を深めることにより、更なる愛郷心を育む。	
6	事業目標	まちの自然、歴史、文化について学習する。	
7	得ようとする事業効果	ふだん訪れることのない町内の史跡名勝について町民の方々や新しく転入して来た教職員に興味・関心を持ってもらう。→一般町民10名以上の参加、新入教職員4割以上の参加と総合学習等での地域学習の実施1校以上	
8	事業概要	元仁木町史編纂委員が説明員となり、町の公園施設や町指定文化財等をバスで巡る。当日配布資料として見学地の簡単な解説書と歴史年表を用意した。	
9	事業形態	町単独事業	
10	予算額	35,000円（貸し切り小型バス代30,000円、解説者謝礼5,000円）	
11	事業年度	平成2年度事業開始（平成9年度～16年度は姉妹町等との交流事業参加児童の事前研修を兼ねていた）毎年1回実施	
12	有効性 1 ② 3 4	評価指標	参加者数 8名
		検証手段	事業終了時にバス車中で参加者から感想を聞いた。
		判断根拠	「地域の文化財を初めて見た」「このような機会がないと来られなかった」「地元の歴史について考える良い機会だった」などの感想があったが、一般町民7名、新入教職員11名中1名のみであり地域学習の実施無し。
13	効率性	(例)事業形態や展開の効率性や費用対効果。他部局やボランティア・NPO等との事業連携の形態、事業効果と費用の関係を明らかにする。ただし、社会教育、生涯学習分野では、その効果を早期に換算することが難しいことが多いため、十分配慮を必要とする。	
14	公平性	(例)費用や費用負担、事業効果が住民に公平に分配されるものになっているか。	
15	優先性	(例)現代的な社会要請や地域課題の解決、事業の緊急性、波及の大きさ、即効性、などによって優先性を示す。	
16	総合判断 (成果と課題) 1 ② 3 4	参加者には仁木町の歴史や文化財、公園施設を知ってもらうことが出来たが、参加者が極めて少ない。参加呼びかけ、チラシ配布などのほかに周知方法や開催時期を検討する必要がある。また、19年度から募集している「仁木ふるさと百選」との連動も考慮する必要がある。	
17	特記事項		
18	備考		